



IgA 腎症と治療について

腎臓内科 山田 宗治

IgA 腎症は日本人に最も多くみられる慢性糸球体腎炎です。糸球体腎炎は腎臓の中の糸球体*という部分が持続的に炎症を生じる疾患の総称です。症状は血尿や蛋白尿で、これらが持続することで次第に腎機能が低下していきます。

確定診断のためには腎臓に針を刺して腎臓の組織をとる検査「腎生検」をします。糸球体に IgA (免疫グロブリン A) の沈着を認めると IgA 腎症と診断されます。体内になんらかの抗原が入り、それに対する抗体として IgA が産生され、この免疫複合体が糸球体に沈着すると考えられています。原因となる抗原はわかっていません。

病因として何らかの病巣感染、特に扁桃における慢性感染の関与が示唆され、その意味で扁桃摘出術+ステロイドパルス療法(扁桃+パルス療法)が根治的な治療法としてわが国では普及しています。扁桃+パルス療法は有効性の高い治療法で、IgA 腎症が発症してから治療が早ければ早いほど効果があります。

しかし、治療後も尿所見異常(血尿)が改善しない患者さんも一定数いらっしゃいます。そのような患者さんの中には病巣感染のフォーカスとして、扁桃とは別に上咽頭炎が最近注目されています。上咽頭炎の治療として上咽頭炎塩化亜鉛擦過療法(EAT療法)が一定の効果があるとされています。

当科ではその専門外来として腎と病巣感染外来を開設し、耳鼻咽喉科の協力のもとで、扁桃+パルス療法だけでなく EAT 療法も積極的に行っております。

*糸球体とは、血液を濾過し尿のもととなるものを作る篩(ふるい)のような構造をしている毛細血管の塊です。1つの腎臓に約100万個の糸球体があるとされています。

40TH ANNIVERSARY

2020年(令和2年)4月

八王子医療センターは 開設 40 周年を迎えます。

